

経営者・従業員のための 健康ひとくちメモ



(公財)福井県健康管理協会
検査課 検査グループ
山場 みゆき

大腸がんを見つける便潜血検査

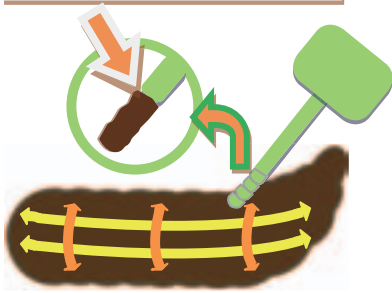
便潜血検査とは、便中に血液（ヘモグロビン）が含まれているかを調べる検査で、「基準値以上の血液」が検出されると、大腸からの出血が疑われます。しかし、便潜血検査だけでは、がんからの出血であると特定できないため、内視鏡検査で大腸をさらに詳しく検査することになります。つまり、便潜血検査は、早期に大腸がんを発見するための一次検査なのです。便潜血検査は、採便キットを使用して検査できる、とても簡単な方法です。しかし、採便者の手に委ねられている検査ですので、正しい採便方法・保存方法をしっかり覚えましょう。

① 正しい採便方法は？

大腸の表面から出血すると、血液は便に付着しますが、とても微量で、どこに付着しているかわからないので、広範囲から採る必要があります。

そこで、**便全体をまんべんなく**ぞつて採るのが正しい採便方法です。

この溝が埋まるくらい採る

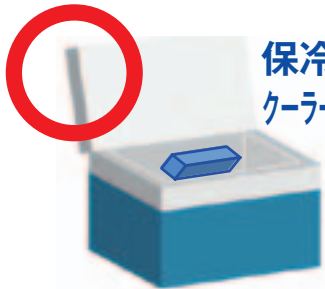


② 正しい保存方法は？

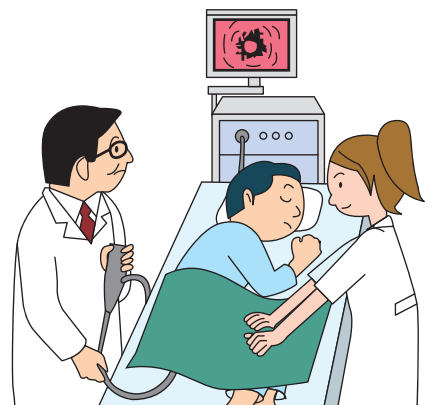
血液は、腸内での温度や細菌の影響により少しずつ壊れて変性していきます。そのため、採便後の容器（キット）を室温に放置すると、さらに変性が進みます。

しかし、採便後の容器を冷蔵保存（4℃）すると、変性は停止します。そのため、**便を採つたら、即冷蔵**が正しい保存方法となります。

保冷剤入
クーラーボックス



冷蔵庫



③ 提出する期限は？

採便後の容器を冷蔵保存すると、血液の変性は停止しますが、約1週間が限界です。

冷蔵保存だから大丈夫と考えず、2日分の便を1週間以内に提出するように心掛けましょう。

毎年検査で早期発見

便潜血検査は、安価で簡単、食事や仕事の制限がなく、いつでも受けることが出来るのが最大のメリットです。

大腸がんを早期に見つけるためにも、自分で便を正しく採ることから始めましょう。